



令和 8年 (0895) 45-0437

暑さもようやく一段落し、朝夕の風には秋の気配が感じられるようになりました。夏の疲れが残ったり新学期が始まったりと、体のだるさが出やすくなります。また、まだまだ熱中症にも気を付けたい時期です。水分補給や適度な休息を取ったり、食事・睡眠など生活リズムを整えたりしながら、心も体も元気いっぱい過ごせるようにしましょう。



9月9日は「救急の日」

「救急」とは、急なけがや体調不良の手当てをすること。ご家庭での事故や怪我への注意は万全でしょうか？子どもはまだ何が危険かを予測することができず、好奇心旺盛で怖いもの知らずです。大人が安全な環境を整えてあげることも大切ですが、けがを防ぐために気を付けることをご家庭で話し合う機会を作ってみるとよいかもしれませんね。

これで安心！
ちょっとしたけがのケア



- ①手当てする大人がまず手を洗う
- ②傷口を流水で洗う
- ③傷口を保護する

ウェットタイプの絆創膏は使い方をチェック！
モイストタイプ（ハイドロコロイド素材）の絆創膏は2歳以下の子どもには使えません。使用上の注意を守って使いましょう。

傷口の汚れやトゲなどが取り除けない、傷が中々治らない時は、病院へ！

家の中の事故を防ぎましょう

子どもにとって安心して過ごせる家の中が、実は事故の危険の高い場所だということをご存じでしょうか。0～6歳の子どもの事故の約40%は、家の中で起こっています。家の中で起こる事故は様々ですが、特に命に関わるのが「窒息」です。0歳児が圧倒的に多いものの、1歳児、2歳児でもゼロではありません。家の中を安全・安心な場所にするために、もう一度チェックしてください。

小さいものはしっかり管理

3歳の子どもの口の大きさは約4cm。これより小さなものは、子どもの手の届かない所に保管しましょう。ボタン電池、ナッツ類、たばこ、薬など身近なものでも飲み込むと危険な物はたくさんあります。

リビングなど



ソファやベビーベッドから落ちたり、たばこを飲んだりといった事故がよくあります。

キッチン



炊飯器や電気ポットなど、調理器具によるやけどが多い場所。

浴室



残り湯に落ちる、入浴中にちょっと目を離した隙に溺れるなど、水の事故の危険があります。

ベランダ



台などに上がって手すりを越える事故が、3歳以降急増します。危険な物がないかチェックしましょう。